



とうほうゆうぎ 東方友誼

発行所
鹿児島市日中友好協会
海江田 順三郎
〒892-8555
鹿児島市千日町1番12号
(タカプラ内)

本 部：海江田 順三郎
TEL 099-226-2161

女性部：天達 美代子
TEL 099-254-1402

学生部：TEL

交易部：赤塚 晴彦
TEL 099-250-1313

企画部：大石 慶二
TEL 050-3456-5228

『日中関係に 思うこと』

鹿児島市日中友好協会会長

海江田 順三郎



チベット自治区の独立運動に端を発した聖火リレーの妨害騒ぎはあったものの、北京オリンピックは史上最多の参加記録と、多くの夢と感動を残して終了しました。5000年の歴史で初めてのオリンピックと言うことで、中国が国の威信をかけ、総力をあげて開催しただけのことはあったというのが率直な感想でした。

オリンピックの興奮が冷め、福田内閣から麻生内閣への政局の急変に目が奪われ、中国への関心が薄れかけていましたが、「十月下旬、北京で開催されるアジア欧州会議の際、初の日中首脳会談に臨む麻生総理に、ギョーザ中毒事件の解明、東シナ海ガス田共同開発計画の進展を期待する」との新聞記事が目

に止まりました。産地偽装の頻発や農業汚染米の不正横流しなど、日本国内でも食の安全を脅かす犯罪が起ころ、中国だけをあげつらう訳にも行かなくなりましたが、その後にミルクなどへのメラミン混入問題が発生し、当の中国国内でも被害が広がっている状況が報道されており、この際日本、中国を問わず、食品の安全管理のため徹底的な調査と、納得の行く説明を期待したいと思います。

北京オリンピックの開幕式で、メインスタジアム

の大スクリーンに「朋遠方より来たる、あに喜ばしからずや・」の論語の第1章が写し出され、中国語で朗読されたのが印象的でした。

論語を教説した孔子は、人の性は本来、善である」と「性善説」に立ち、孟子もその節に従いました。

しかし同じ儒家の理想を掲げながら、荀子は人間の本性は悪(欲望)であり、自然のままの性情にまかせていると、利を求めて争い、欲望のために社会が混乱する、悪である人間の本性を増大させないよう「礼」によって、人々の欲望を調整し、社会の秩序を保たねばならないと説いています。

荀子の弟子と称せられる韓非子は、人間の本性である悪は、礼や道義により矯正するのではなく、法規によって抑制すべきだと法治主義を唱えました。性善説を取るか、性悪説を取るか古来より論の分かれる所ですが、人間の本性には理性があり本能があり、なかなか複雑だと思っています。

所で孔子は国の政治で重要なものは、軍備の充実ではなく、食糧の充足であり、食糧よりも大事なものとは為政者に対する信頼であると強調しています。孟子も王道政治の第一歩は人民の生活を安定させることと、仁(対人関係における深い信頼)徳による教化を力説しています。

戦後の荒廃から立ち直り、ひたすら経済成長を追求し、メイドイン・ジャパンは粗悪品の代名詞となり、欧米先進国からエコノミックアニマルと罵声を浴びながら経済大国に成長しバブル崩壊後景気の低

迷に悩む日本と、今や世界の一大工場と化して高度成長を持続中の中国とは、古来の精神文化や経済発展の経験法則など、相互に学び合い、長短補い合って日中間の理解と友好を一層促進する必要がある次第です。

『中国日本語 教育事情 二(実情)』

元安徽農業大学外国語学部日本語教師

加治佐 惺



様々な要求や動機によって日本語を学び始めるわけですが最初の関門は大学入学試験です。日本と同じように、高校三年次の六月に全国統一共通試験があります。英語、数学、国語(中国語)、理科、社会の五科目で、一教科百五十点満点です。合計七百五十点のうち五百点以上取れなければ、国立大学への合格は無理でしょう。本校では最低合格点が五百三十点と聞きました。七割以上の点数ですからかなり優秀な学生が入学してきます。

国立大学に入学すれば、入学金、授業料が私立大学の半額以下です。ですから高校時代の受験勉強は熾烈を極めます。大学進学希望者は、一、二年次の夏休みも、冬休みも補習や課外授業があり、ほとんど休みはとれないということです。平日も放課後二時間ほど特別授業があり勉強漬けだそうですから、日本よりも受験競争が激しいものと感じます。本当に受験「戦争」という言葉がふさわしいでしょう。点数不足者は私立大学や専門学校を目指します。生徒は大

ようか。中国の大学は九月に始まります。主に安徽省内からの学生が多いです。全寮制で同学科の六人が一部屋に住んでいます。ベッドとトイレがあるだけで、机も冷暖房もありません。校内に二万六千人の学生と四千人の教職員家族が住む多くの建物があり、壮観です。日本語科はクラス三十人で、学年二クラス計六十人です。語学学習は少ない方が効果的だから、二十人ずつの三クラスにしてくださいと要求するのですが学校側は認めてくれません。最初は五十音の発音練習です。中国語の発音と違って、一音一音が独立しているから発音しやすいだろうと聞くと難しいと言います。特に混同しやすいのは、「な」行と「ら」行です。「ら」行と「だ」行との区別もつけ難いそうです。特に農村出身者には、方言の影響が強く残っていて苦労しています。

面白いことに気づいたのです。鹿児島弁でも、(落花生)のことを(だっきしよ)と言ったり(らっききよ)のことを(だっききよ)とか(だっききめ)と言いますが、彼らに(らっききよ)と言わせると、(だっききよ)と聞こえるのです。また(いいだろ)と言わせると、(いいだどう)と聞こえます。舌の構造が似ていて発音の上からは鹿児島弁は中国語に近いのかもしれない。次に五十音字の書き方の練習です。ひらがなは草書よりもさらに書きやすいように平べったく変化させたもの、カタカナは漢字の片一方(一部分)を借りたものと説明します。元となった漢字を示しながら理解させます。楷書、行書、草書、ひらがなへの変化を面白がっています。中国から伝わった漢字を、日本人が工夫して日本語を表記する道具として使うようになったのかを理解させます。物まねではなく、日本人独自の工夫や知恵に驚いています。実際使うようになってその必要性和便利さにも感嘆しています。次は文型です。中国語は英語の文型と似ていて、主語

述語、目的語、または補語と続きます。

日本語の「私は学生です。」は「我是学生。」であり「I am a student.」と表記します。ところが、日本語は主語、目的語または補語がきて、最後に述語がきます。最後まで聞かないと意味が分からない不安だと言います。また日本語ではよく主語を省略する場合がありまますから、何がなんだか分からなくなってしまうのです。さらに、日本語には助詞や助動詞も多く、その意味が複雑で、理解困難と訴えます。英語には格や時制により語形変化がありますが、中国語には全くありませんので、日本語の用言の活用語尾変化にもびつくりしています。ですから奇妙な日本語訳となります。このように中国人にとって、日本語を学ぶ上で多くの困難があります。おおよそ

千五百年ほど前、漢文(仏教經典)が日本に伝来した時の日本人の逆の苦労を彼らは今しているわけです。難を承知で日本語学習を始めたわけですから、諦める学生は一人もいません。青春の全てを賭けて昼も夜も努力し続けています。日本語を修得することは自分の将来だけでなく、家族や国に貢献することなのだと思っています。彼らの夢の実現のために、日本人として微力を尽くすことが私の生き甲斐でした。



『就職のおもい』

留学生からのメッセージ

鹿児島大学法文学部四年生 丁雪輝

就職合格通知書をもたらした時、ゼミの指導教授山田先生に教わったことを思い出した。『大学は学問を研究しモノゴトに対してきちんとした考え方をもちつて

ーニングの場所であるはずだ。その「きちんとした考え方」とは、マスメディアのコメントや新聞・雑誌を読んでまねをするのではなく、「自分流」の考えを持つこと。それが一番大事なことだ。

『と。日本の企業は、新卒採用を求められ卒業する前に仕事を決めなければ、その後の就職は更に難しくなる。そのため、時期になると、卒業をまじかに控えている同級生の皆は企業の募集に没頭し、「とりあえず内定をもらわなきゃ」と言わんばかりに命がけて就職活動に精を出す。

中国の内モンゴル出身である私は、高校卒業後親戚の会社で働くことになっていたので「就職活動」がどんなものかあまり知らなかったが、知らないうちに、自分もついにこのブームに乗っていた。そして、数多くの会社の説明会や企業を訪問し、エントリーシートや就職試験問題集に熱中していた。

しかし、留学生である私にはさらに厳しい現実が待っていた。日本に来る前に約五年の職歴を持ち、大学に進学しても同級生と十年くらい歳の差があった。そのため、企業の説明会や、企業を訪問するときには必ず「年齢の制限があるか」と聞いていた。もちろん、直ちに断る企業もあったが、多数の企業から「前例はないが、受けてみてもよい」と答えを得た。日本に長くいた私は日本の企業が年齢に厳しいことをよく耳に入っただので、それは多分相手に傷つかないような「建前」だと意識していたが、「受けてみてもよい」といわれたから、どうしても負けたくなかった。いくつかの企業に履歴書を送り、一時審査は全部否定された。それからあきらめず、続々申し込み、



数十社の企業に縁を切られた。失敗や挫折が多かったが、何とか自動車関連企業の一つにチャンスを得き小論文や面接に全身全霊を傾け、自分の強い思いをアピールした。

いま就職活動を終えて、山田教授の教えがとても役に立ったことを身にしみて感じている。いつも厳しいことばかり言われる先生に尊敬と感謝の気持ちさがさらに強まった。

苦勞をするばかりの就職活動に気がとられ、莫大なエネルギーを使い、学校の先生や周りの方々にもたくさん心配をかけていた。今の私は学問に絶対妥協しない山田教授の鋭いツツコミに対応しながら卒業論文の研究に苦しんでいるが、「頑張ればできる」と信じて大学生らしい論文を書くように努力している。そして、日本社会に入っても困難なことから逃げず、少しずつでも乗り越えながら会社と共に成長できることを望んでいる。

『中国で実感したこと』

みんなにも違う日中の民族性



山崎 真里菜

私は二〇〇七年の秋から一年間、中国湖南省の湘潭大学へ短期留学していました。語学はもとより本当に様々なことを肌で感じ学ぶことができ、それらを全部書きたいのですがきりがありません。そこで今回は中国と日本の民族性の違いについて感じたことを少しだけ書かせていただきます。

私がいたこの一年は、チベット問題があったりオリンピック開催年であったり四川省で大地震が起きたりと、中国激動の年でもありました。これらを通して私は中国の熱い民族性を実感することができました。

オリンピックが近づくとつれ中国全土は燃えあがるように盛り上がりていきました。そして開催を間近に控

えた五月には聖火リレーが私のいた大学にも来て、私も友達と一緒に早朝から沿道に並び、聖火を迎えました。何時間も待つてようやく聖火が到着した時、同じように集まっていた大学の学生や、このあたりに住む人などものすごい数の人が一つになり、何かが爆発したような熱気に圧倒されました。彼らはみな、オリンピックが自国で開催できることを心から喜び、また誇りに思っていました。私は日本で聖火リレーを見たことはありませんでしたが、もし日本であつたとしてもここまで熱く喜びを爆発させることはないだろうと感じ、同時に日本人はこんなに自国に対する愛情や誇りといったものを持っているだろうか考えるのと少し寂しく思いました。

また、ちょうどこの頃四川省で大地震が発生し、多くの方が被害に遭われました。この時多くの中国人は同じ仲間が傷つき苦しんでいることに心を傷めました。またテレビや新聞などでは毎日のように四川の様子が報道され、中国が一体となつてこの苦しい時を共に乗りこえていこう、といった趣旨のスローガンやCMもたくさん目にしました。

この時も中国の人々は、同じ中国に住む人々を自分のことのように案じ、みんなで力を合わせて弱った中国を立て直そうという、「国」という単位に重きを置いた考え方がでした。

総じて私が感じ取ったのは、中国人の連が自分の国に対して持っている純粋な愛情や誇りでした。こういった熱い民族性を持つていることは知識として知ってはいましたが、今回の留学を通して肌で感じる事ができました。ものすごいパワーに触れ、圧倒され、初めて本当の意味で知ることができたのだと思います。

どちらかと言うと控えめな民族性を持つ私たち日本人からすれば、驚いたり慣れないと感じる部分もあつたりするかもしれませんが、私は活気に満ち溢れた中

国に、日本にはない魅力を感じました。て最近少しおとなしすぎる私たちの住む日本。中国のこういった「熱い」部分を吸収すればもつと元気で活力のある国になれるのかも知れません。

『一氏格氏・インタビュー記事』

去る6月7日、鹿児島市日中友好協会交易部会は第2回目の中国交易視察団を組織し、4泊5日の日程で義烏・寧波を訪れました。

義烏でのマーケット視察に際しては、鹿児島県出身で当地にて輸出事業を営んでいる開富国際有限公司代表の一氏格(ひとしじははじめ)氏にお手伝い頂きました。

義烏市の現状について

現在福田市場が第二期まで稼働していますが、今年の十一月に第三期工事が終わります。現在市街地にある服飾品の店が全部此処に転居してきます。世界一の卸売市場になることは間違いありません。また商品の品質も、向上してきました。一度見に来てください。しかし日本の要求にこたえる品質を確保するのは簡単ではない、また日本の要求がきつすぎるのも事実です。数量は少ない上品質要求は厳しい、「そんなところのものを作らなくてもほかにいくらでも注文はある」これも事実です。敢えて言いますが、日本側も、使用するのに差し支えない傷等を天候鏡で探してB品に落とす考え方は止めなければ、日本の商品作りはどこの国でもしてもらえなくなることを心配しています。

氏格(ひとしじははじめ)氏 プロフィール

・1942年9月10日生れ。

・仕事内容―本からの要請の商品を作る工場を探し、その作 成管理―日本への出荷と、義烏市の市場での買付けのお手伝い等をしていきます。



鹿児島市日中友好協会平成20年度通常総会開催 2008/05/10

5月10日、鹿児島市日中友好協会の平成20年度の総会(23回)が開かれました。
日時:平成20年5月10日(土)10:00 場所:ジェイドガーデンパレス 出席者総数:83名(交易部 11名)
講演:鹿児島県中国帰国者自立指導員 杉元基一郎 先生 演目:「戦中・戦後の中国在任体験を通し日中友好を願う」
観覧会:12:40~14:40 (飛天の間) 祝宴:●太極拳(薩摩すこやか会) 増満音代社中●日本舞踊 芳堂流社中
●日本舞踊 舞泉流社中 ●楊名時太極拳演舞 ●歌謡 天達美代子 葛城ほか
今回は当協会の交易部との同時開催になりました。
交易部では6月7日に第二回目の「中国商業施設を訪れる研修ツアー」の説明会も同時開催されました。



中国四川大地震・街頭募金活動展開 2008/05/17

5月12日午後2時30分に起きた中国・四川省の大地震が発生した。
発生から4日が経った17日、私たち鹿児島市日中友好協会では協会学生部と中国人留学生学生会25名、総勢40名で鹿児島市の繁華街で街頭募金を行った。天文館の電車通り入口付近と山形屋入口の中町ベルクの2ヶ所にそれぞれ20名づつ、募金箱15個での街頭活動を展開、マスコミ各社の取材もあり、終日くりひろげられた。市民から寄せられた義援金の総額は67万円に達し 集まったお金は学生会へ福岡総領事へ大使館を経て中国四川の被害地に確実に届けられる。



2008春大留生と行く1日バスツアー・宮崎日南紀行 2008/05/27

2008/05/27 2008・5・18(日)朝7時半、鹿児島大学図書館前を出発しました。今回の参加者は中国人留学生45名、日本人大学生 6名、協会会員6名(世話人)、小学生2人の計59名。年々、人気のバスツアーになりました。今回は留学生関係で鹿児島大学留学生学生会に1本化、今年の会長の孟くん(人文社会科、修士)にすべて任せました。例年参加者が混乱して悩んでいましたが、今年は彼の活躍ですべて上手く進みました。協会の学生部は兄玉新会長の活躍で今までの中で一番多い日本人学生の参加で、交流ツアーとしてはバランスが理想的でした。バスの中では孟くん日本人学生との絶妙のコンビでプロの南国交通バスガイドをまじえ、結構長時間の車中を楽しく盛り上げていました。絶好の天候に恵まれ、ちなみに翌日は大雨でした。嬉しい1日バスツアーをすることが出来ました。



第2回 交易部義島市場訪問 2008/07/24

義島市場における商談について
貿易は、自社で1コンテナに仕立てられるかが肝要である。それが出来ないと商売としてなかなか成り立たない。しかし、貿易ビザナは最初から1コンテナ数百万円のリスクを背負う事は難しい。そこで手取り早く買付けの世界に足を踏み込めるのが、10万点以上の小商品が取り扱われ、活気あふれる日用品雑貨卸市場の街「義島」である。交易部会が今後果たせる役割としては、貿易ノウハウの習得に努め、貿易を仕入れる会員を多く募り、ビジネスツアーを派遣するなど商談の場を多く提供することではないだろうか。 その結果、混雑便を仕立てることができ、その後交易部会員が独り立ちできればこの上ない。それがひいては、鹿児島と中国の経済交流の活性化にもつながるはずだ。



天文館ホテル協議会 四川大地震募金贈呈式 2008/08/8

天文館ホテル協議会(会長 浜田 望)は8月8日、北京オリンピック開幕記念の日に、天文館にある12のホテルで2ヶ月間行った募金箱による募金活動の義捐金を鹿児島市日中友好協会を通して北京大使館に贈呈した。
贈呈式は天文館のタプラ4階役員室において 天文館ホテル協議会の会長、浜田 望氏より市日中友好協会の海江田順三郎会長に手渡され、海江田氏から浜田氏に感謝状が渡された。



学生部・おはら祭・照国バザーと「国際交流フェスティバル」に出店 2008/11/03

小雨模様で鹿児島市天文館において、学生部主催のバザーがありました。
場所は三越デパートから照国神社に向かう十字路の角、小田原米商店の前という最高のロケーション。
昨年、不調(赤字)だったタピオカジュースに変え、「一昨年のヒット商品「ゴマ団子」で勝負しました。ずいぶん、予想をオーバーして黒字でした。」と今年の学生部長の兄玉香織嬢は自慢げに報告してくれました。儲けはすべてその夜に行われた「打ち上げパーティ」で消えたそうです。
鹿児島市民への活動PRと学生たちの協力・親睦になる恒例行事になっていけば幸いです。



鹿児島大学中国人留学生の春節晩会 2009/01/24

24日6時から1日早い春節前夜祭(大晦日)が鹿児島大学教育学部の大食堂で開かれました。
今年も協会側から招待された6名の会員が参加しました。また、ここ数年、協会学生部(日本人学生が中心)と留学生学生会との交流が密なためか、6名の学生部員も参加して餃子つくりなどに一緒に励んでいました。手作りの餃子やから揚げ、フルーツにアツアツのおでんなどテーブルいっぱいの御馳走に、やがて飛び入りのハイソプラノの男子学生の唱歌に拍手喝采、変わった少数民族風の踊りに真似コンクール 最後はビンゴゲームで盛り上がっていました。

毎年、鹿児島島に在住する外国人と市民とが一緒に1日バス旅行がある。鹿児島市が支援する市民の会(KIICS)の主催である。週の内2日は天気が崩れるという秋の空、せつかくの集いが水入りにならないような青空だ。日だけ汗ばむような陽気や抜けるような青空だ。▼大型バス三台に各シートに市民と外国人が相席で座る。当協会が受け持つ3号車はいつも日本人の比率が多い。挨拶の時に尋ねてみた。「日本人はちやうど今の季節を、天高く馬肥ゆるの秋」と言いますが、中国でも「天高く馬肥ゆるの秋」とは言いませんか。返ってきた答えは「中国では「秋高气爽」と言います。」「気持ちは言葉で表す」というが、言葉から気持ちは連想させるわが国に比べ何となく情緒に欠ける気がする。▼「日本では変わります。秋の天気のことを女心と秋の空、と言います。」と言うと今度は合点したように、「その時は中国では「女人心像雲一つまり、女心は流れる雲の如しです。」と李白や杜甫の詠う情感あふれた漢詩の世界を持ち、現在でも四文字句成句に日常に使う。こなす風土のわりには今ひとつ物足りない、と思うのは自分だけなのか。▼後日、応答した中国人留学生の女性からメールが届いた。「中国のネット調べたら「天高馬肥」はありましたよ。でも馬肥(ma fei)の意味が違いました。食欲の秋、馬も美味い餌を腹いっぱい食べて太ったという意味ではなかつたです。いい勉強しました。」なんとなく気になったのでグーグルで検索してみた。「昔、北方に匈奴と呼ばれた騎馬民族が游牧生活を営んでいた。彼らの住む土地は冬の寒さが厳しく、食料が足りなくなる。そこで彼らは夏までに馬に草を食べさせ肥えさせ、秋になり農耕を営む人々が収穫の時期を迎えると、その収穫物を奪奪するために馬を駆って一斉に攻めた。ちなみに、万里の長城は肥えた馬が越えられないように造られたのだそう。そう言えば、バスで横に座った内、包丁で来た丁雪さんが「わたしの田舎、毛肥えるは馬肥えるの言葉ありますヨ」と小声で言っている意味がわかるような気がした。馬肥えるは、もともと馬越えるだったのかな。」

編集後記 閑淡
大石けいじ

